

第5回 In vivo 実験医学シンポジウム
「遺伝子組換え動物の四半世紀と今後の展望」開催にあたって（ご案内）

四半世紀にわたる遺伝子組換え技術の目覚ましい進歩により様々な遺伝子組換え動物が開発され、遺伝子組換え動物を用いた in vivo 実験は生命科学・医学・医療の発展に欠かすことのできないものとなりました。そして、その重要性が今後ますます高まることは疑いようもありません。

わが国の実験動物の開発と普及を目的に半世紀にわたって邁進してまいりました実験動物中央研究所では、これまで数多くのユニークな遺伝子組換え動物を開発し、医学研究ならびに創薬研究の基盤形成に微力ながら貢献してまいりました。そして、当研究所の目指すところである「個体生命科学」を振興するために、2007年から毎年「In vivo 実験医学シンポジウム」と題して in vivo における生体機能の解明に関するシンポジウムを開催してまいりました。

5回目となる今回は、実験動物中央研究所の連携協定機関である東北大学の医学系研究科長・山本雅之が世話人となり「遺伝子組換え動物の四半世紀と今後の展望」をテーマに開催する運びとなりました。3月11日の東日本大震災では東北大学は甚大な被害を受けましたが、皆様方の温かいご支援のおかげで動物実験を再開できるところまで回復いたしました。東北大学を代表し、山本からこの場をおかりして厚く御礼申し上げます。そして、「第5回 In vivo 実験医学シンポジウム」をこのように共催できますことを大変嬉しく思います。本シンポジウムでは、当研究科動物施設での遺伝子組換え動物飼育における大震災での危機管理対応についてもご紹介させていただきます。

シンポジウムの第1部では、遺伝子組換え動物の最も有用な用途としての疾患と病態の解明について、第2部では最先端の in vivo 実験手法の開発とそれを用いた新たな知見について、第3部ではヒトにより近い生体反応解析を目指して開発中の新たな動物実験モデルを紹介させていただきます。本シンポジウムを通して、遺伝子組換え動物を用いた研究の歴史と現状について理解を深め、そして in vivo 実験医学の輝ける未来を想像したいと思います。

なにとぞ、多くの皆様方のご参加とご支援をお願い申し上げます。

2011年9月

第5回 In vivo 実験医学シンポジウム

参加無料
定員 150名

遺伝子組換え動物の 四半世紀と今後の展望

2011年 **12月8日(木)** 13:00 ~ 17:15
学士会館 (東京都千代田区)

PROGRAM

テーマ1

『ヒト疾患モデル動物』

座長：山本 雅之 (東北大学大学院 医学系研究科 研究科長・医学部長)

「マウスモデルを用いた環境ストレス応答機構の解析」

山本 雅之 (東北大学大学院 医学系研究科 研究科長・医学部長)

「マウスモデルを用いた関節リウマチ発症機構の解析」

岩倉 洋一郎 (東京大学 医科学研究所・システム疾患モデル研究センター長)

テーマ2

『次世代 In vivo 研究』

座長：本橋 ほづみ (東北大学大学院 医学系研究科 准教授)

「In vivo イメージングを用いたエネルギー代謝の転写調節カスケードの解析」

矢作 直也 (筑波大学大学院 人間総合科学研究科・内分泌代謝・糖尿病内科 准教授)

「In vivo における幹細胞制御を探る」

西村 栄美 (東京医科歯科大学 難治疾患研究所・幹細胞医学 教授)

テーマ3

『In vivo 研究の新たな展開』

座長：石井 直人 (東北大学大学院 医学系研究科・免疫学 教授)

「免疫不全マウスを用いたヒト肝臓モデル動物」

末水 洋志 (実験動物中央研究所)

「機能的ヒト免疫反応を惹起できる免疫系ヒト化マウスの作製」

高橋 武司 (実験動物中央研究所)

「実験動物としてのマーマセットの歴史と発生工学技術の発展」

富岡 郁夫・佐々木 えりか (実験動物中央研究所)

「3.11 東日本大震災・東北大学動物実験施設の被害と対応」

笠井 憲雪 (東北大学大学院 医学系研究科・医用動物学 教授)

シンポジウム 13:00 ~ 17:15 学士会館 202 号室

懇親会 17:30 ~ 18:30 学士会館 201 号室 (懇親会は会費 3,000 円)

お申込み

2011年11月30日(水)までに、Web (<http://www.ciea.or.jp/invivo/>) または FAX (044-201-8511) にて、以下を明記してお送りください。

- ① 会社名・所属、氏名 (フリガナ)、電話番号、FAX 番号、住所、E-mail
- ② 懇親会の出欠 (会費 3,000 円)

第5回 In vivo 実験医学シンポジウムのご案内

主催：東北大学 公益財団法人 実験動物中央研究所

テーマ：「遺伝子組換え動物の四半世紀と今後の展望」

20世紀後半の分子生物学の急速な進展の中で、動物個体の遺伝子を操作できるいわゆる遺伝子組換え技術が開発され、その技術を使った多様な遺伝子組換え動物が作製されました。この技術は、その後の生命科学・医学研究の手法論を大きく変化させました。すなわち、遺伝子やその産物の研究が試験管内のみならず個体レベルでも可能になるという大きな転換です。最近では従来困難とされていたマウス以外の種でもこの技術の応用が可能となってきました。この技術は様々な疾患のモデル作製や遺伝子機能の解析ばかりでなく、in vivo イメージングなどの新規技術との結び付きにより、生体内での分子発現や細胞動態の観察も可能となっており in vivo 実験医学でのさらなる拡がりをみせております。

第5回目を迎える『In vivo 実験医学シンポジウム』では、当財団と組織的連携協力協定を結んでおります国立大学法人東北大学の医学系研究科長であります山本雅之先生に企画をお願いし、この遺伝子組換え動物が現在の生命科学・医学研究の進展に如何に寄与したか、また最近の研究の動向についても話題を提供して頂き、遺伝子組換え動物を使った in vivo 実験医学の今後を皆様方と考えたく思っております。多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

日時
・
場所

2011年12月8日(木)

シンポジウム 13:00～17:15 学士会館 202 号室

懇親会 17:30～18:30 学士会館 201 号室

シンポジウム

参加無料

※定員150名

※懇親会は会費制 3000円



学士会館

東京都千代田区神田錦町3-28

TEL.03-3292-5936

- ・地下鉄都営三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車 A9出口1分
- ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 3a出口から徒歩5分
- ・「東京」駅北口からタクシーで10分

お申込み

2011年11月30日(水)までに、以下のいずれかの方法にてお申込みください。

* Webからお申込みの場合: 右記URLからお申込み下さい。http://www.ciea.or.jp/invivo/

* FAXの場合: 下記申込書にご記入の上、そのまま 044-201-8511 までお送りください。

* いずれの場合も、お申込み内容を印刷したものを当日お持ちください(Web申込書、Fax原紙)。

申込書

勤務先名・部署・役職				
氏名	フリガナ	電話番号	FAX番号	
住所	〒			
E-mail		懇親会	<input type="checkbox"/> 参加 <input type="checkbox"/> 不参加	どちらかにチェックをお入れ下さい